

ママサポートえぶろん 《第 67 号》

ぽけっと



発行 2016年 3月 28日
編集 特定非営利活動法人
ママサポートえぶろん事務局
発行責任者 帯谷 昭子

地域共生ホーム全国セミナーinとやま 研修を終えて

生活サポートてのひら 星川 房子

昨年(2015年)の11月28、29日、上記研修のために富山県へ行って来ました。

出発当日の朝、60数年ぶりの大雪でJRが遅れしまい、千歳発11時30分の飛行機に、なんと11時17分千歳空港に到着。もう駄目！飛行機に乗れないと思いながら、空港の係員に誘導され全力疾走しました。滑り込みセーフ！あんなに走った事は久しぶりでした。

翌28日、奥田和志氏による基調講演【助けてと言える社会を目指して～生活困窮者支援の現場から～】を拝聴しました。これまでのホームレス支援は、炊き出しや寝る場所の提供等がメインで、個々の個性や事情に耳を傾けることがほとんどないものでしたが、「一人の路上死も出さない」「一人でも多く一日でも早く、路上からの脱出を」「ホームレスを生まない社会を創造する」をミッションとした支援活動を27年間行いその結果、自立93%、就労自立58%の達成率となったそうです。物を与えるだけではなく、個人それぞれにあった支援が大事だと思いました。また、今の子供達が「助けて」と言えないのは、「助けて」と周りの人たちに言えない大人を見ているから。支援してくれる人たちがいるよ！といった話しも、聞くことが出来ました。

その後【富山ダルク】による和太鼓演奏を聴いたのですが、どの方も自信に満ちた顔をしていました。ダルクとは、薬物依存症の当事者同士が生活を共にし思いを分かち合い、回復を目指して集まる場で、この30年間で全国に広がった団体です。

今回の研修では、認知症があろうが精神の病があろうが薬物依存症であろうが、個々個人一人ひとりに対する細やかな声掛けと気配り、人間対人間のかかわり。そして普通に地域で暮らせる社会や環境が大事だということなどなど。色々と心に響きました。

さて話は変わりますが、富山の食べ物。今までは北海道が一番！と思っていましたが、富山も海の幸が絶品でした。一緒に行ったスタッフと美味しいものをいただきました。

富山へはもう行ける事がないかも…良い経験をさせてもらい本当にありがとうございました。



昨年6月から4回にわたり、ほんべつフリーライフの活動をご紹介させていただき機会をいただきまして、まことにありがとうございました。



おかげさまで、地域のみなさまやボランティアさん、利用者さんに支えていただき、無事に一年間運営することができました。なにぶん新たなチャレンジですので、アクシデントがあったり、迷って立ち止まったりすることも多々ありました。その都度みなさまに助けていただき、あたたかいお言葉をいただきながら乗り越えてまいりました。今回は紙面をお借りいたしまして、この一年間の活動を振り返り、ご紹介させていただきたいと思います。

1. 地域食堂「まんてん」

昨年1月にオープンいたしまして、ランチタイムに足を運んでいただいております。月曜日は「おそば」、火曜日は「カレーライス」、水曜日は「日替わり定食」、金曜日は「豚丼／天井」を500円で提供させていただいております。ボランティアさんのつくる家庭的であたたかいお食事が人気で、お客さまがホッとできる接客も魅力のひとつです。

店内には就労支援事業所の利用者さんがつくりましたプレスレットや手芸などの授産品や、アメニティ本別の利用者さまがつくったカゴ細工を展示販売させていただき、お食事に来られたみなさまにご好評いただいております。季節によっては就労継続支援事業所で収穫した野菜を、格安で販売させていただきました。**低農薬**で育てたことも人気となり、みなさまにお買い求めいただきました。

次年度につきましてもみなさまに愛される食堂として、ご意見をいただきながら工夫してまいりたいと考えております。また、せっかくのスペースでございますので、お食事をされなくてもお気軽に足を運んでいただき、おくつろぎいただける雰囲気づくりも検討しております。



2. ワークステーション「わくわく」

昨年6月に就労継続支援B型事業所をオープンいたしました。就労支援をするスタッフも未経験でありましたが、プロの農家さんに多大なるサポートをいただき、第一歩として畑作を開始しました。加工用として販路が決まっておりましたトマトのほか、じゃがいも、玉ねぎ、枝豆、大根などを植えました。おかげさまで昨年は天候にも恵まれまして、スタッフも利用者さんと一緒に、土に触れる喜びと収穫する感動を共感しました。



収穫した野菜は地域食堂の食材として利用したほか、イベントでも販売させていただきました。収穫期を終えると大豆の豆寄りをして、加工用として買い取っていただきました。労働の対価として、お客さまに喜んでお買い求めただけことが、利用者さんの労働意欲にもつながったかなと思っております。

ほかにもチョコレート事業として、草取りや除雪、掃除などのお手伝いをご依頼いただきました。地道な活動により、

少しずつお声かけいただく機会が増えてきているところです。屋内でも、プレスレットやポチ袋などの授産品制作や古本クリーニングを行ってきました。

まだまだPR不足のところはありますが、今後も利用者さんの就労の幅を拡げていきたいと考えておまして、広くみなさまに知っていただくべく努力していきたいと思っております。みなさまのお役にたてる事業所を目指していきます。



「まんてん食堂」も一年が経ちまして、「わくわく」ももうすぐ一年を迎えようとしています。今後もみなさまのご指導とご協力をいただきながら、町民のみなさまに愛される食堂と事業所となるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



老人介護 基本の“き” ～研修会に参加して～

グループホームうらら花 福田 栄子

3月5日に帯広で行われた、三好春樹さんが教えて下さる研修会に参加してきました。

最初に、「介護とは」という原点からスタートしました。介護は、ただ手伝って介助するだけではなく、心のケアも兼ねているということを改めて感じました。まずは信頼関係を築く、否定も肯定もしない。ただ振り回されてなんぼ。だと言うことです。利用者さん（認知症の方）の行動には必ず何かしらの理由がある。説明してもダメ。話をそらすことも時には大切。それらのバランスが難しいと思いました。ですがやはり、お互い人間ですから好き嫌いもあれば、性別によっても変わる。奥が深いと思いました。

次に感じたことは、机と椅子の高さを変える。たったこれだけで、食事がしやすくなったり、立つ、座るなどの動作がしやすくなるということです。介助する側がどのような位置にいて、どのような力加減でサポートするのか。ということももちろん大切ではありますが、まずは机と椅子の高さを変えること。実際に体験してみましたが、自分の思ったよりも低い位置で、前の方に遠く。これだけで、自分自身もすんなり楽に立つことができました。視野も広がり、机全体が見わたせました。ということは、トイレやお風呂の手すりの位置ひとつで、残っている力で安全に安心で行える。ということを経験を通して知れました。

介護の仕方を学ぶことも大事ですが、人間の体の作りを理解すれば、どのような位置なら力が入りやすく安全なのかを知れることに繋がるのかもしれない。

三好春樹さんの講演、また聴きに行きたいと思いました。

いろは坂

ランチメニュー

買い物の途中でお昼になったので、商業施設の中にある中華料理店に入った。

一人なのでカウンターに座り、「鶏肉の甘酢あんランチセット」を注文した。私は、とろっとした甘酢の味が大好きだ。

運ばれてきたセットは、ご飯、卵スープ、イカとモヤシのソテーに漬物もついて、とても豪華だ。

ご飯を一口食べたとき、隣から「ねえ、それで980円なの？」と声をかけられた。驚いて顔を向けると、年配の女性が二人、メニューと私の前の料理を見比べている。

「はあ？そ、そうらしいですね」
知らない人に、食べているものの値段を訊かれたのは初めてだ。

私は、かまわず食べ続けた。
しかし、その後、ピーマンをつまむと、「私、ピーマン嫌いだから」

広井 数子

鶏肉を口に入れると、「ああ、私、歯が悪いから肉はダメだ」

と、いちいち感想を言う。あずましくないことこの上ない。

二人の注文品は、なかなかこない。

好物の甘酢の味もよくわからないまま、急いで食べ終えた。

立ち上がったとき、二人は麺をすすっていた。

「やっぱり、お昼は麺だよねえ」

大きな声で言っている。

「悪かったわねえ、ご飯を食べて」心の中でつぶやきながら、980円を支払った。

この二人は、次に来たときは、きっと鶏肉ランチを注文する。間違いない。



写真館

in あ・笑〜る

